

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572100602
法人名	特定非営利活動法人 いきいき会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地 (電話) 0982-63-4557
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 3 月 26 日

【情報提供票より】(22年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 7人, 非常勤 17 人, 常勤換算	16.4人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費5,000/月円	
敷 金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	69 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田病院 佐井整形外科医院 柴尾医院 たかはし歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当法人は、「地域と一体となって認知症高齢者を支え、誰もが安心して暮らしやすい地域社会の実現」を掲げ、町社会福祉協議会、町内の他のホームと連携し活動をしている。「認知症サポーター講座」の活動も2年目に入り、地域との交流も進んでいる。また、「利用者の笑顔がみたい」をケアの中心にすえ、ケアの改善に取り組んでおり、昨年まで3か月毎であったものを、毎月のモニタリング、計画の確認・検討、ホーム便りの発行と家族への報告など、サービスの質の充実が図られている。恵まれた立地条件の中で、ゆったりとした穏やかな時間が流れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で、改善課題について話し合い、改善計画を作成して、取り組んでいる。モニタリングについては、毎月、ミーティングを開き「気付き」を出し合いながら実施し、介護計画の確認や見直しの必要性を検討している。鍵をかけないケアの取り組みについては、「鍵をかけない状態」を実施してみて、「鍵がかかかっていないとほっとする」という共通認識を得て、安全性を検討しながら、時間を区切って取り組みを続けている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれで項目を分担して自己評価に取り組み、その後、職員会議で検討してまとめている。日頃のケアについて新たな気付きや課題があり、改善に向けて全職員で取り組もうという機会になっている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、自治会代表者、地域包括支援センター職員、市町村担当者等の委員で、行事と組み合わせたり工夫しながら開催し、サービスの質の向上に活かしている。今後は、消防団員の参加もお願いしていこうと考えている。また、民生委員の参加も増やしていくと、地域との連携の場もさらに広がるのではないだろうか。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり、活発な活動が行なわれている。運営推進会議への参加も得て、出された意見等について検討し対応している。また、面会時等、意見や不満を伝えやすいように声かけ、環境づくりを行なっている。ホーム便りは毎月発行し、日常の様子や近況を細やかに伝えている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の散歩や「見守りパトロール」の折、挨拶をかわしたり、とれた野菜や果物の差し入れがあるなど地域の人々との交流がある。自治会の行事への参加もある。また、ボランティアの受け入れ、保育園児との交流も続けられている。認知症サポーター養成講座も2年目になり各地の公民館等を訪問し、連携が広がっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立時より、地域の事業所としての役割を認識しながら、「その人の思いを大切にその人の笑顔がみたい」そのための具体的な5つの基本方針を掲げ、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎に毎月、理念に添った具体的な「目標」を掲げ、日頃の観察や気づき、ケアプランの作成、ケアに活かしている。また、法人の賛助会員や家族会にも理念は共有され、ホームの活動の支援が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩で気軽に挨拶を交わしたり、タカナの届け物や、みかんをちぎっていいよなど交流がある。また、認知症サポーター養成講座も2年目になり自治公民館等20数箇所訪問している。消防団、学校、保育園児、ボランティア等との交流も続けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員で理解し、パート職を含め全員で、自己評価に取り組んでいる。昨年の外部評価結果については、改善計画を立て、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会代表者、町社協担当者、地域包括支援センター職員、民生委員等で、定期的開催している。行事と合わせて開催したり、参加が得られやすい工夫をしている。要望や意見も多く出され、改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の問題や分からないことは、気軽に問い合わせたり、助言をもらったりしている。また、町の社会福祉協議会とは認知症サポーター養成講座開催など日常的に連携し活動している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月毎だったホーム便りを毎月発行するようにし、より細かく暮らしぶりを報告している。また家族の来訪時には、声をかけて近況を伝えている。来訪のない方には、電話をかけて報告をしている。出納帳も定期的に報告し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、独自の運営が行なわれている。家族が出席がしやすいように運営推進会議を行事と組み合わせたり工夫し、意見や要望を引き出すようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	課題となっている職員の定着については、利用者にとって職員は重要な環境であるという認識の下、「看護と介護の違い」「ホームの目指す介護」について伝えながら努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回ミーティングを開催し、全職員が参加している。パート職も利用者の受け持ちがあり、気づきを出し合い日々のケアの検討を行ったり、また研修の報告もされ情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内3か所のグループホームと連携、交流し、またグループホーム連絡協議会に参加し、研修会の参加、情報交換等している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学やお茶を一緒にしたりして、雰囲気になれ、安心して過ごせる環境づくりをするよう配慮している。入居後は、さびしい思いをされないよう心がけている。可能であれば、宿泊体験も受け入れている。併設のデイサービスより利用開始になることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や日常生活の中で、本人の経験や知恵を教えてもらったり、方言の意味を教えてもらったり、支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いを自分自身に置き換えて考えることを理念にも掲げており、普段の会話等を通して思いや意向を把握、気づきをするようにしている。把握が難しい場合は、センター方式を一部利用して掴むよう工夫している。入居間もない人の場合は、様式を使い1日タイムを追って行動や思いを把握するように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や思いを聞き、カンファレンスを開いて、スタッフの意見を出し合い介護計画を作成している。介護計画は、具体的で平易な表現で立てられており、家族、スタッフともにわかりやすいものになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	改善計画に基づき、3か月毎のモニタリングを毎月行なって、日頃のかかわりの中での気づきや意見を出し合うとともに介護計画の確認や見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援、家族の宿泊、併設のデイサービス、宅老所との連携等多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの本人のかかりつけ医の受診を支援している。受診時は、情報提供書を作成したり、直接付き添い普段の様子を伝えたりして適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、ホームのできることの範囲を伝え、状況の変化に応じて、その都度意向を確認しながら、全職員で共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに応じた言葉遣いや声かけ、対応をしている。排泄への声かけもさりげなく行なわれている。記録等は、見守りしながら書くが、保管は事務所内で適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の思いやしたいことを優先し、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じ食事をしながら、介助が必要な方には、声かけや介助を行なっている。	○	職員交代の時間と重なることがあるが、できれば食事中は動かず一緒に過ごすことで、だんらんがさらに楽しいものになるのではないだろうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	改善計画に基づき、利用者の希望を聞いて午後の入浴を実施してみたが、あまり希望がなく、午前入浴が基本になっている。入浴を拒否される場合は、足浴や清拭を行なっているが、拒否されないような声かけも工夫している。また希望があれば、夕方入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道や生け花、畑仕事、洗濯物干し・たたみ、リハビリ体操、「見守りパトロール」、散歩等その人に応じた役割、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、お菓子や衣類の買い物、散歩に出かけている。また、季節ごとに花見などドライブに出かけた、ふるさと訪問などで出かける機会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	改善計画に基づき、まずは鍵をかけない状態にし、「鍵がかかっていないとほっとする」という思いをスタッフが共有し、安全面への対応を検討している。現在は、週末の一定時間や門扉までなど限られた開錠になっている。	○	鍵をかけないためにどんなケアが必要か、安全面への配慮など検討を重ね、あきらめず、鍵をかけないケアの取り組みを続けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練、消火訓練を地域の消防団、役場防災課の協力を得て実施している。		さらに近隣住民の協力の確保についても働きかけを続けてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、栄養バランスよく、一人ひとりの状態に応じた調理の工夫がされている。利用者の希望メニューは、誕生会などで工夫するようにしている。水分摂取について必要な量が取れるよう声かけを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同制作し出品した作品を飾ったり、花を生けたり、またテレビの音量、室温、臭いなど適切に保たれて居心地良い空間になっている。畳の間や適切な場所にソファが置かれその人の居場所の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台やタンスの持ち込みなど使い慣れた物の持込があり、その人らしい居室づくりがされている。		